

サロン 登美ヶ丘茶論(7)

2020年7月



責任は取る取るサギにうんざりし

安倍さんの肩持つ評論家(ひと)も出るワイド

ギャンブルや賄賂育む法務省

任命の責任あると何回目

スピード感もって国会閉じちゃった

最後までベストカップルあの河井夫妻(ふたり)

◆「中山徹奈良女子大学教授による スーパーシティ法学習会に参加して」

7月11日土曜日高の原駅前の北部会館二階で奈良9条の会主催のワークショップに参加しました。最初にきっかけはTwitterデモで#ハッシュタグを付けてスーパーシティ法案に反対と発言していたら、なぜか何らかの操作がされて他の人から見えなくされた事が主催者の方の実体験として語られ、会場からまるで検閲ではないかというコメントが出ました。ネットで情報収集して有志で講演会をしたとありました。最後に中山徹先生からの提起で、

- ・高齢者介護、医療、教育など生活分野で生じている問題が情報技術の発展で解決するのか
- ・政策、公共施設の統廃合、東京一極集中などが生活上の諸問題を引き起こしている
- ・国保が高い問題、介護保険の個人負担が高い問題、これらを情報技術の発展で解決できるのか
- ・スーパーシティ法は社会的要因を無視し、技術が発展すれば問題が解決するように描いている。
- ・スーパーシティに乗るとわずかな利便性と引き換えに高度な個人情報企業が渡る。
- ・スーパーシティに乗らない人、乗れない人の生活上の諸問題はどうか解決するのか。

田舎ではなく都市部で行われるが、カジノを誘致しようとしている大阪の夢洲でスーパーシティにして医療や健康をITで管理するというのならIR推進は矛盾しているとのコメントが私には印象に残りました。途中ワークショップをはさみ、参加者から医療と遺伝の情報が企業に渡ると選別による格差が広がる事子孫が不利益を被る事、今でさえ住民自治が十分になされていないのに個人情報の同意に意見が反映されないのでは等意見が出ました。(IMさん)



◆ 世話人の秋山より皆様へ連絡します

* 4月1日奈良紀寺の「^{れんじょうじ}璉城寺」で行われる予定だった「阿波丸遭難75周年慰霊祭」 -

この九条の会から12名の方が参加予定でしたがコロナの為中止となりました。世話役の僕としては誠に残念。このお寺は歴史も古く花もきれい、珍しい重要文化財もあることからきっと皆さんと行きたいと思っておりますが、先日住職の下間景甫さんより連絡をいただきました。それによると「お寺の全ての行事は中止せざるをえませんでした。4月1日の阿波丸慰霊祭、春の専修念仏会、特別拝観、京終サロン、歌声まつりか、お寺ヨガ、全ての皆様の健康と命を守ることを第一と考え中止しています。一般拝観もお断りしていますが、それでも庭のマツリカ、大山蓮華は今まで一番の美しさで咲いてくれました。お参りの方へみてほしかった。まだまだコロナには油断禁物ですが、必ず安心して来ていただける日が来ることを信じております」・・・との事です。

この寺の珍しく上を向いて咲く「受け咲きオオヤマレンゲ」そっと見に行けばよかった。

*新型コロナの来襲、安倍マスク不評がトドメとなって安倍は「死に体」となったのはよかったが、私たちの平和運動も足踏みをしています。7月8月(平和の月)ですが、全ての平和の集い、広島への修学旅行、世界核兵器禁止大会等、中止か縮小となりました。

この「九条の会」も6月から公民館での世話人会ができるようになりましたが、ほぼ活動停止でした。やっぱり顔を見て向き合って話しをするのが一番です。

7月28日、8月25日(予定)定例の世話人会です。平和を愛する人、憲法九条を大切にしている人、もう何だって良いからおいで下さい。どうしたら平和な世界が作れるか、どうしたら憲法九条を守って行けるのか?私はずっと色々な話が聞きたいです。



経産省丸投げだけは持続化し

NHK他国のデモはよく報じ

世界中武器売りまくる大統領

反論も書面棒読みする総理

今回も国会閉じて逃げ切るゾ

諫言ができてぬ自民という組織

◆ 危険な敵基地攻撃能力保持論

防衛省は陸上配備型ミサイル防衛システム「イージス・アショア」の配備断念を発表しましたが、「過ちを正すを憚ることなかれ」の実践、と喜んではいられない。そもそもあれは日本を攻撃するミサイルを打ち落とそうとするものではない。山口に配備するのはグアム島の米軍基地に飛んで行くミサイルを、秋田に配備するのはホノルルの米軍基地に飛んで行くミサイルを打ち落とすものだ。東京に飛んでくるミサイルを打ち落とすのなら発射基地は能登半島、と毎日新聞でも正しく指摘されている。日本の施政権外の米軍基地防衛は完全な憲法違反であるばかりでなく、安保条約にも触れるのではないか。

私は、今回の「イージス・アショア」配備を想定して集団的自衛権容認の閣議決定と戦争法制定をしたのだろう（もちろん、それに止まらない）と思ったが、配備断念の言葉に続いて出てきた「敵基地攻撃能力の保持」論に、続いて出てくるのは「敵が我が国を攻撃する兆候を見れば、先制防衛のため先制攻撃をする」だ。私は恐ろしくなった。恐ろしいとともに、これはナンセンスである。これこそ、潜在的仮想敵国（多分中朝）をして、愛国有理・報復有理を公然と言わしめるものだ。素直に考えたら、「なに！我が国の基地を先制攻撃するって、じゃあ先に先制攻撃だ」となるではないか。それは、先制攻撃に対する先制攻撃、それに対する先制先制攻撃・・・と、ミサイルに対するアンチ・ミサイル、それに対するアンチ・アンチミサイル、アンチ・アンチアンチミサイル・・・と同じで際限がないではないか。それだけじゃない。

ここまでなら言葉の遊びみたいだが、この日本政府首脳の発言は、日本に対する核先制攻撃をも合理化・正当化するものです。仮に中国か北朝鮮が日本を先制核攻撃して、日本を壊滅に近い状態にしても、「国際世論」ってやつには胸を張って自らの正当性を唱えることができるのです。国連の旧敵国条項は未だに生きているのですから、国連からは「国連全体で取り組むべきことをよくやってくれた」と褒められるかもしれない。

敵基地攻撃は専守防衛の範囲内で合意、という論は 1950 年代からあるのだが、周辺諸国が核兵器を持った今日では甚だ危険な論です。という、「だから日本も核兵器を持つべし」論が出ているのだろうが、それはますます危険。敵基地攻撃能力の保有を許してはなりません。(Sm さん)

・「発射前でも攻撃 合憲」(「毎日」7/9 付) – 恐るべき外相発言です！

河野太郎外相は 8 日の衆院安全保障委員会で、日本への弾道ミサイルの防衛のためミサイル発射前の段階で敵の発射台や基地を攻撃することは憲法上許容される、との考えを示した。

篠原氏(立民)質問 – 「敵基地攻撃が許されるのは(発射直後の)ブースト段階のミサイル本体であって、発射台、基地そのものを攻撃するのは違憲ではないか」 (cf. ブースト boost 打ち上げ, 上昇)

河野氏答弁 – 「どの時点で(武力攻撃の)着手と見るかは国際情勢、相手の明示された意図、攻撃手段、対応により個別具体的に判断する」; 「攻撃が許されるのはブースト段階のミサイル本体だけで発射台や基地を攻撃することは違憲との指摘は当たらない」

・毎日 7/18 世論調査	内閣支持率	32% (前回 6/20 36%)	不支持率	60% (前回 56%)
	政府コロナ対策評価しない	60%	評価する	17%
	自分がコロナにかかる不安感じる	81%	感じない	18%

・時事通信 7/10-13 調査 内閣支持率 35.1%(前回 40.3) 不支持率 46.2%(前回 59.1) [不支持>支持3ヵ月連続]

・言論 NPO(非営利シンクタンク)7/13 有識者調査 政府コロナ対応評価しない 65.8% 評価する 28.2%

「茶論」への御投稿をお待ちしています。日頃思うこと、感じること等どんな話題でも結構です。気軽に御投稿ください。掲載時、投稿者は匿名扱いとします。

原稿は以下の世話人ポストへ放り込んでください: 石田(松陽台 2-16-4 ☎46-0352), 赤沢(鳥見 2-5-1), 秋山(東登美 4-22-19), 藤田(西登美 4-17-4), 堀江(西登美 1-20-7), 宮田(鶴舞西 2-10-C505), 羽谷(中登美 4-1 ローレル I-7-204), 森本(西登美 1-22-21)

登美ヶ丘九条の会

